



40年間ありがとう!  
会報誌最終号☆

## 【支部例会報告】

### ■能登支部・青年部会合同例会

11/20(月) 木下 恒喜 会員 (株)丸一観光 常務取締役

会場:七尾商工会議所

#### 「三代目への挑戦 ～どん底からの逆襲」



合同例会は、ゲスト 21 名を含む 65 名という多数の参加で熱気に溢れ、非常に盛り上がりました。

報告は①自己紹介②入社と同友会での学び③どん底へ④挑戦の4つのパートで構成されており、報告後半のコロナ禍や、親しい方の死も経験したどん底期には、自暴自棄になり

同友会の退会も考えたそうです。そこからある会員の姿を見て「社員を守る」「今自分に出来ることをする」へ気持ちを切り替えができ、三代目に向けて明日への笑顔をつくる挑戦が始まりました。

グループ討論では、今まであった「ピンチ」は何か?そしてどう乗り越えたか?について8つのグループでそれぞれ話し合い、一緒に働く人の大切さと挑戦する気持ちを再確認しました。

(寄稿:多田 健太郎 会員)

### ■金沢中央支部・環境経営委員会合同例会

会場:IT ビジネスプラザ武蔵

11/21(火) 島 洋之 会員 鳥屋建設(株)代表取締役社長

野村 昭夫 会員 ノムラ合成(株)代表取締役(環境経営委員長)

櫻井 浩一 会員 (有)インテグレイテッドシステムズ 取締役社長(環境経営副委員長)

#### 「SDGs とその先のカーボンニュートラルへ」

金沢中央支部のよい地域・よい経営環境グループで3年続けてきた、会員のSDGsの取り組み報告を島グループ長が総括しました。3年間で計13社が報告し、初年度の2020年度は、SDGsを知るところから始め、2022年度は地域の方や顧客を巻き込んだ取り組みを報告しました。SDGsの17の目標のうち、13社の取り組みにおいて、紐づけできなかった番号はありませんでした。この流れを継続すべく、来年度は4社に新規報告してもらいたいと話しました。



その後、野村環境経営委員長が脱炭素社会について話しました。脱炭素社会とは、温室効果ガスの排出量を減らし社会全体を低炭素化することを目指すものです。脱炭素が進まない場合の温暖化による弊害や、温暖化を防ぐためのエネルギーシフトの例を報告し、「脱炭素社会の実現には、1人1人のライフスタイルの転換が重要であり、企業にとっても脱炭素は価値になる」と話しました。

続いて、櫻井環境経営副委員長から、脱炭素に繋がる省エネについての話がありました。大生食品工業（株）で、IoTを用いて電力量を測定し見える化して削減をおこなった事例を報告しました。「省エネの進め方としてはEMS（エネルギーマネジメントシステム）ができているかがポイント。これからの時代はエネルギーの自産自消も必要」と話しました。

グループ討論は、類似した業種ごとに分かれて行い、具体的な事例や同業種の取り組みなどを聞くことができ、皆の意識改革が第一歩となり、社員と共に実践していくことが大切だと確認し合いました。（寄稿：島 洋之 グループ長）

## ■金沢城南支部例会

11/28（火）高 穂栞 会員 ウイルフラップ（株） 代表取締役 会場：金沢学生のまち市民交流館  
「SDGs 的コミュニケーション 利き脳からみるより良いパートナーシップのつくりかた」



今回はテーマに添ってワークショップ形式で行いました。SDGsの17の目標から「17.パートナーシップで目標を達成しよう」を念頭に相手との信頼関係を構築し、チームワークを高め、生産性の向上に繋げるための「思考のクセ」を診断しました。

まずはハーマンモデルによって自分の利き脳をA～Dの4つのパターンに分類し、特徴を確認しました。その後、各テーブルで各自のパターンを共有し、特徴を把握した上で今回のグループワーク「サステイナブルなカップラ

ーメンをつくろう！」を体験しました。

自分と相手の「思考のクセ」を理解したうえで討論することにより、良いコミュニケーションが生まれ、各グループで熱く語り合いました。（寄稿：辻 喜一 グループ長）

## ■白山・野々市支部企業づくり例会「企業訪問」

11/29（水）杉本 健一 会員 （株）アドバンス北陸サービス 代表取締役  
「掲げた経営指針、描いたビジョンの実践！」

企業づくり&新たなチャレンジ企業訪問型例会として杉本会員の新しい新オフィス「さしすせそうじ舎」で見学&例会を行いました。

昨年、経営指針講座を受講、会社の創立50周年もあり、社員や関係者に新たな指針を披露し、新オフィスではビジョンをパネルで見える化して地域の方へのお掃除教室を開いています。また障害者や新人社員が業務清掃の練習ができる場をはじめとする新しい挑戦なども報告しました。理念に向かってビジョンを実践する熱い杉本会員、取り組むにあたり現状の問題・課題など赤裸々な話もあり、理念を進める具体的な学びを得ることが出来ました。



グループ討論では『どんな会社がよい会社ですか?』をテーマに本質的な話から各社が同友会理念にある「よい会社」に近づく学びとなりました。(寄稿：館 喜洋 広報委員)

#### ■金沢駅西支部例会

会場：IT ビジネスプラザ武蔵

#### 11/29 (火) 「フィードバック例会～同友会での学びと実践～」

「アフターコロナからの試行錯誤」野崎 英則 会員 (株) ヴァケーション 執行役員

「2022 年度経営指針成文化講座を受講してから」佐野 馨 会員 加賀重量 (有) 専務取締役

「劇的ビフォーアフター」林 義人 会員 (株) 昭和住宅 取締役部長

野崎会員は、コロナ禍により売上は前年比 75% 減、社員数 20% 減という大きな影響を受け、旅行業が外部環境に非常に弱いという現実を改めて認識しました。一方で、危機に直面したことにより、以前より社員の自主性が育ってきていることも感じており、愛犬バスツアーや韓国フォトウエディングなど新規事業を精力的に行っているとのこと。



佐野会員は、経営指針講座で今まで雲の上の存在だと思っていた経営者の方々との交流により様々な刺激を受けました。その後、定例会議による情報共有、数値目標の設定&報告などを実践し、念願だったバックオフィス改革にも取り組むことが出来たとのこと。

林会員は、経営指針講座を受講したことにより、「自分が本当に何がしたいのか」「会社は今のままで良いのか」といったことを常に考えるようになったといいます。社長である父親と長時間話し合い、来年の秋に社長交代することが決定したとのこと。

グループ討論では「これから実践することを一つ宣言しましょう!」をテーマに、ブレインストーミングの手法を用いて、全参加者が今後実践することを宣言しました。

最後に、宗守副代表理事より、このように一度立ち止まって自身や経営のことを考える機会を持つのは他の異業種交流会にはない同友会の特色であり、参加者にとって良い機会になったのではないかと結びました。(寄稿：石瀬 貴昭 グループ長)

#### ■金沢中央支部例会

会場：IT ビジネスプラザ武蔵

#### 12/19 (火) 田井中 章憲 会員 (株) ティー・ファミリー 代表取締役

#### 「経営指針受講後の『人を生かす経営』の実践報告」

受講に元々は積極的でなかったのですが「やると決めたらやる!」という芯の強い田井中会員は、サラリーマン→独立→多店舗展開→事業縮小という経験を経て、特に辛かった事業売却という決断が出来たのも、経営指針講座を受講した学びがあったからこそ(自身の経営理念が明確になっていたからこそ)、と語りました。加えて、



経営理念を作成しさえすれば良いというものではなく、社員の腹に落とし込み、ベクトルを合わせて邁進（挑戦）して行く！と力強く話したことも、参加者の心に響きました。

グループ討論も具体的でイメージし易く、各々の環境による千差万別の体験が各々にとって、とても参考になる有意義な場になりました。（寄稿：北川 喜隆 広報委員）

## 【委員会活動報告】

■共同求人委員会 2023 活動総会&第7回産学懇談会

会場：フラワーガーデン

11/22（水）「5年ぶり開催で7学校と意見交換 ～インターンシップを採用に活かす～」



2023 年度（2024 年春採用）の活動総会を行い、その後5年ぶりとなる産学懇談会を開催し、6 大学、1 専門学校から7名の就職担当を招き、37名が参加しました。総会では、2023 年テーマ「情熱と感動を伝えられるポジティブな会社」から 2024 年テーマ「前向きに情熱と感動を伝え共に実を結ぶ会社へ」ということで振り返りと方針を萩野委員長が報告しました。

その後の懇談会では、同友会の共同求人活動を紹介した後、各学校から、内定状況・学生の就活動向・学校における就活の取り組み・同協会との取り組みなどを報告してもらいました。

グループ討論では、2025 年採用の活動からインターンシップで取得した学生情報を就職・採用活動に活用できるのは、一定の要件を満たしたタイプのものに限られることから、「インターンシップについて、学校と中小企業の本音」のテーマで双方の意見を交わしました。参加校は北陸大学、金城大学・同短期大学部、金沢学院大学、北陸学院大学、金沢工業大学、公立小松大学、大原学園金沢校（順不同）。

（寄稿：萩野 充弘 共同求人委員長）

■共同求人委員会 金沢学院大学「業界研究会」

11/25（土）「学生、企業 双方にとって新たな発見」

初めての試みとして、金沢学院大学より、2 年生対象の授業として、業界研究会を行うということで共同求人委員会に協力と出展の依頼がありました。当日は様々な業界から出展企業 40 社（うち共同求人参加企業 20 社）が体育館に集まり、2 年生約 600 名に向けて業界（会社）研究を実施しました。午前は文学部とスポーツ科学部、午後は芸術学部、経済学部、経済情報学部に分け、1 回 25 分の説明で業界における自社独自の強みや将来の展望などを語りました。

異業種が集まったことで、学生にとっては一度に多くの業界を勉強できたことや、就活を目的とした合同企業説明会とは違い、学生目線による業界の問題点や将来性などの質問もあり、企業にとっても新たな発見が得られました。

（寄稿：藤井 敬士 共同求人委員）



■環境経営委員会 ワークショップ例会

会場：大生食品工業（株）

12/6（水） 野村 昭夫 会員 ノムラ合成（株）代表取締役

櫻井 浩一 会員 （有）インテグレイテッドシステムズ 取締役社長

「脱炭素経営でイノベーションに繋がる」



8月に続き、3回目のワークショップ例会を開催しました。「地球温暖化時代から地球沸騰化時代に入り、一刻も早く脱炭素社会を達成しなければ生態系の破壊が加速し、経済活動の破壊、住環境の破壊につながる」との警鐘が野村委員長より報告されました。同友会で取り組みが進められているエネルギーシフトの説明と共に、脱炭素経営を進めることで各企業のイノベーションに繋がり、また企業に利益を残す活動となることを説明しました。

櫻井会員からは「いしかわ事業者版環境 ISO」を例として、まずは現状の環境負荷を知ること。そして削減目標を立てて実践し、フィードバックするというエネルギーマネジメントシステムの導入・運用を行っても、業績を拡大しながら年間 CO2 排出量を 1%削減することは高い目標であるとの説明がありました。

ワークショップでは、各社の電気使用量をもとに年間 CO2 排出量の計算を行いました。一般家庭の CO2 排出量（約 3t）に比べて、3 倍から 50 倍と、電気使用量だけで大きな環境負荷を発生していることを知ることができました。削減方法として、「いしかわ事業者版環境 ISO」のチェックシートをもとに、各社ができる取り組みについて意見交換がなされました。合わせて、先日行われた金沢中央支部とのコラボ例会で出された会員の取り組み事例を共有し、各社の実践事例を取り入れながら自社の取り組みをフィードバックする同友会の学び方が石川の脱炭素経営を加速する、ということに深く気づくことができる例会となりました。（寄稿：櫻井 浩一 環境経営副委員長）

■社員共育委員会 「経営者と社員の共育塾」オリエンテーション 会場：金沢未来のまち創造館

12/13（水）『個』にフォーカスして全 4 講で 1 月から開講」



第 13 回となる共育塾は、2024 年 1 月 17 日に開講となり、全 4 講に渡って経営者と社員が共に学びます。今回の共育塾の特色は幹部の『個』にフォーカスをすることです。第 1 講では幹部の方の夢、実現したいこと、強みなどを深掘りして、第 2 講で会社の理念の理解、第 3 講では社会に求められることを考え、最終講では個と会社と社会の融合を図ります。

当日のオリエンテーションでは、「経営指針を作ったが共有できていない」「幹部にもっと他社の幹部とつながってほしい」とそれぞれの思いを共有しました。そして、オリエンテーションの最後には参加した会員から共育塾参加の意思表示がありました。

共育塾を通じて経営者と幹部がともに成長する姿には毎回感動させられます。今期の共育塾には既に

たくさんの参加表明があり、活気と学びある共育塾になりそうです。(寄稿：吉田 章 社員共育委員)

## ■障害者問題委員会 12月

会場：金沢市役所

### 12/14 (木)「就労専門部会と行政と一堂に会し懇談」

障害者問題委員会の12月会議は、金沢市役所にて就労専門部会を交えたディスカッションと2月19日に開催する就労支援セミナーのキックオフミーティングを行いました。

就労専門部会として3名の各施設の施設長や管理者の方、金沢市障害福祉課より3名、同友会から7名の委員が参加しました。

今回は、雇用する側の企業、それに対し支援する行政、支援施設にはお互いに知らない



問題点があり、それが雇用の障壁になっているかもしれない。そこで、雇用に係わる私たちが一堂に会し、共に問題点を打ち明けることで解決への方策を見出していこうという目的で行いました。

施設からは、農福連携、田植えの補助など体験できる企画をしていることや、金沢市からは「ともに働く」をテーマに、能力に合った選択ができる就労選択支援や本人と共同して就労アセスメントを作成していることなどが紹介されました。

最後に、2月19日(月)13:30～16:30石川県地場産業振興センターにて、「障害のある人の就労支援スキルアップセミナー」を開催し、藤井委員長が報告することが確認されました。

(寄稿：藤井 敬士 障害者問題委員長)

## 【DOYU石川発行終了のごあいさつ】

1983年に紙媒体による第1号の会報誌が発行されて以来40年、長きに渡りご愛読いただきましたDOYU石川は情報のデジタル化により、毎月の発行日を定めての発信を本号をもって終了することとなりました。

今後は開催行事ごとにホームページへアップし、活動のアーカイブを担保しつつ迅速に結果報告として閲覧できるように取り組んで参ります。

今後共、変わらず広報活動へのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

広報委員長 乙丸屋 久兵衛

同友会3つの目的>>>よい会社をめざす よい経営者になろう よい経営環境をめざす

Ⓢ石川県中小企業家同友会

〒920-0059 金沢市示野町南52 tel.076-255-2323 fax.076-268-5656